

LPG架装シエンタHV好評

日の丸 交通足立 計100台導入へ

日の丸交通（東京都文京区・富田和孝社長）グループの日の丸交通足立（東京都足立区・横山真人所長）は7日、タクシー車両として、同社2台目となるトヨタのシエンタ・ガソリンハイブリッドLPGハイフューエル車を導入した。後改造でLPG架装を施した同車は、昨夏にテスト導入した1台目（既報）が燃費・性能両面で好評を博したため代替え車種に選定された。昨年とこの日の納入分も含め今後は代替えの新車（2020年度予定26台）、既存車の改造あわせて約100台がLPG架装シエンタHV（ハイブリッド車）となる予定だ。

「改造車の概念覆した」

日の丸交通足立は、トヨタのLPGハイブリッドシステム搭載タクシー専用車であるJPN（ジャパンタクシー）が立体駐車場に入らない高さ（制限1700ミリ）のところJPNは1750ミリ、シエンタは1675ミリだったため、やむなくシエンタやプリウスのカンリンHVを代替え車種として導入していたが、営業所全体の燃料費がLPGガスHVであるJPNに代替えしている他営業所と比較して高額になったため悩んでいた。そこで采自動車（東

京都足立区・安田敏明（交通車両管理課課長）と合格点以上の高評価を得たため今年度から大盤導入が実現した。LPG架装シエンタHVはJPNと燃費は同等であり、かつインシャルコストは架装費を含めてもJPNの定価と比較し大幅に廉価であることも強み。立体駐車場問題で同様の悩みを抱える場合はもちろん、価格面そのほかの理由でJPNが導入できずLPG車を諦めるような事例に対しても需要が広がっていくことも期待され、日の丸交通足立の大盤導入の成果は多方面から注目を集めている。

「燃費（JPNと同等の約11〜15割程度）、性能両面で申し分なかった。故障もなく整備性も良い」（横山所長）、「昔のLPG改造車のイメージと全く違う。進化を感じ概念が変わった」（當間智日の丸



立体駐車場にも余裕で収まる